

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 多治見高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年2月6日(木) 15:30~16:30
- 3 開催場所 多治見高等学校 大会議室
開催にあたり、委員による「2年『総合的な探究の時間』学年発表会」の参観を実施した

- 4 参加者
向井 貴彦 岐阜大学地域科学部教授
小口 英二 一般社団法人多治見市観光協会 COO
小西 直哉 JR 東海多治見駅首席助役
坂崎 雄介 多治見市青年会議所理事長
田口 直佳 「やくならマグカップも」原作ディレクター
平野 智子 育友会副会長(書面参加)
村松 敦子 多治見市養正公民館館長(書面参加)
山内 英之亮 多治見市役所企画部企画防災課課長代理

学校側	増田 智至	校長
	川原 正史	教頭
	大野 和司	事務長
	清水 香織	教務主任
	桑原 華栄	進路指導部長
	星野 益也	生徒指導部長
	鈴木 貴博	特別活動部長
	下山 翔哉	教務部

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 校長挨拶
- (2) 「令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書」について学校からの説明
- (3) 学校運営協議会委員からのご意見・ご感想等
 - ① 「2年『総合的な探究の時間』学年発表会」の感想
 - ② 「令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書」について 等
- (4) 高等学校に期待される社会的役割等(スクール・ミッション)について
- (5) 諸連絡
 - ① 「総合的な探究の時間」全校発表会について
 - ② 令和7年度 学校運営協議会について

「2年『総合的な探究の時間』学年発表会」参観、学校からの説明を踏まえ、委員から(3)に関して意見を得た。

意見1：礼儀正しく、よい挨拶ができる生徒が多く、好感が持てる。社会人になってからも大切にしてもらいたい姿勢である。

意見2：総合的な探究の時間は、知らないことや学ばなければならないことが多々あるということに生徒自身が気づく貴重な機会となっており、大きな意義がある。

意見3：学校評価アンケートで8割以上の生徒・保護者から高評価が得られた項目は、一方で2割近くの生徒・保護者は否定的な回答をしているという見方もできる。少数の意見にも耳を傾けていく必要がある。

意見4：生徒の発表では、論の展開や引用文献の位置づけといった構成が共有されていた。大学や社会人になってからの学びに繋がる良い機会となっている。仮説を立てることを着地点とする発表が散見されたが、検証、考察にまで踏み込むことでより深い探究に繋がる。

意見5：充実した発表があった一方で、物足りない印象を受けた発表もあった。自分が学ぼうとしていること、目指していることを意識化させていくことが大切である。

意見6：生徒相互による質疑応答の機会が設けられていたが、形骸化していた感がある。本質的な問いの立て方についても学ぶ機会が必要である。

意見7：ICTの活用は手段であって目的ではない。ICTの活用が学ぶ意欲や学習成果に繋がっているのか検証が必要である。従来の技術・手法ならではの良さもあり、ICTの活用がその否定に繋がってはならない。

意見8：自宅学習時間の多寡そのものは評価の対象たり得ない。自宅学習が、学習成果、進路実績等の向上に繋がっているというエビデンスを示した上で取組みの重要性を伝達し、生徒の動機付けを図ることが大切である。

意見9：部活動の統廃合を検討している状況でもあり、部活動に加入していないことを否定的に評価してはならない。家事の手伝いや地域とのコミュニティーなど、生徒の活動の場も多様化しており、それを認めていく必要がある。

意見10：コンセプトの説明を受けた際に示した意見が反映されたスクール・ミッションとなっている。

意見11：多治見高校らしさがあり、わかりやすいスクール・ミッションである。グローバルな人材育成という視点が評価できる。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会では、委員より学校運営に関する貴重な御意見を伺うとともに、本校に期待される社会的役割等（スクール・ミッション）についての承認を得た。